

平成19年8月
ネットワーク全労生

新しい時代を切り開く労組幹部の養成へ

九州労組生産性会議

議長 鶴我和哉

九州労組生産性会議(略称九労生)は、昭和34年に九州地方労組生産性企画実践委員会として発足以来、労働組合の立場から九州における生産性運動の推進機関として、教育、啓発、実践活動を通して、民主的労働運動の確立と九州経済発展の基盤づくりにその役割を果たしてきました。

昨今の経営環境、労働環境の大きな変化の中で、九労生としては新しい時代を切り拓く労組幹部の養成を最も重要な課題と位置づけ、各種事業を展開しております。特に、経営のチェック機能を果たすために、経営側と対等な立場で議論できる知識・能力の養成を目的とし、連合や各単組で取り組むことの難しい実務的課題の解決に向けた具体的研修をここ数年の新たな事業の柱として実施してまいりました。

九労生事業としましては、組織基盤の強化・拡大のために、これまでの「役員会」、「総会」に加えて昨年「企画委員会」(年2回)を設立しました。企画委員会では、環境変化に適応する事業への見直し機会をつくるため、また事業の形骸化を防ぎ会員ニーズを事業にスムーズに反映するための機関として、役割を果たしています。また、企画委員会に先立ち、一昨年には会員全組織にアンケート調査を行い、九労生活動への具体的ニーズや、既存事業ごとの評価等をお寄せいただき、企画委員会にて分析・検討を行いました。

次に、政策・時事的課題の研究として「特別講演会」(年2回)、「九州地方労組生産性討論集会」(1日)、「労組幹部朝食懇談会(ユニオンモーニング)」(隔月開催)を開催しています。特別講演会では、その時々トレンドのテーマについて中央で活躍の著名講師を招聘しており、討論集会では生産性三原則をはじめ労組の喫緊の課題をテーマとして取り上げ、講演やパネル討議を通して、課題解決のヒントを探っています。ユニオンモーニングも開催数が100回を超えましたが、その時々ニーズの高いテーマでゲスト卓話を行い、労組幹部の定期的交流の機会としても役割を果たしています。

加えて、「労組幹部のための労働法研究会」、「労組幹部のための財務管理重要ポイント10」、「メンタル・ヘルス研究会」等、今日の実務的課題に対応する研修も開催し、会員労組の幅広いニーズに対応しています。

平成18年度は各事業とも前年度よりも参加者数が増えており、これを九労生への期待の高まりと理解し、平成19年度のより良い事業展開へとつなげて参りたいと存じます。